

MISt-X04 七夕の夜にまた会える(織姫と彦星のことば)

日本における七夕伝説の代表的なものは、天の川を隔てて離ればなれにされた恋人同士の織姫(織女[しょくじょ])と彦星(牽牛[けんぎゅう])を哀れに思った天帝(織姫の父)が、年に一度だけ会うのを許したというお話に基づいています。(離ればなれにしたのも天帝なんです。)

◆ そんなふたりが今日、会おうとしている。

一年に一度、七夕の夜、織姫に会いに行く彦星。彦星は今年もこうしてしっかりとした足取りで着実に歩んでいる。もうすぐ会える愛しい織姫を想って、一歩一歩踏みしめながら前に進み、それを確認するかのようになりに力を入れてつぶやく。

「ワシ、歩ってる！」(私は歩っている)

一方、織姫は彦星に会えるという喜びのあまり、とめどなく流れる涙とこみあげる嗚咽で声も出せない。『うれしすぎてことばが何も出ない』と言おうとしてやっと声になったのは

「ことばが…」 だけだった。

彦星の言葉	ワシ、歩ってる！
	↓
	ワシ アルツテル
	↓
	わし アルタイル ↓つまり わし座の アルタイル

織姫の言葉	ことばが...
	↓
	こと ばが
	↓
	こと ベガ ↓つまり こと座の ベガ



要するに、彦星は わし座のアルタイル
織姫は こと座のベガ ということなのだ！

補足

1. 向こう岸へ行く方法は、晴れた七夕には渡し船に乗って、そして雨降りの七夕には天の川の水かさが増して船が出せなくなるためカササギの群れが羽を重ね橋を作ってくれるわけですが、そのいずれの場合も川を渡るのはいずれも彦星ではなく織姫の方だとの説が主流であるようです。そうだとすると、MIStの(彦星の方が歩いて渡る的な)説明とは少し状況が異なりますが勘弁して下さい
2. 地球からの距離は、アルタイルまで17光年、ベガまでは25光年であり、アルタイルとベガの距離は15光年です。2人が出会うためには光の速度(秒速30万km)でも15年かかることとなりますが、でも何らかの方法で毎年会っていると信じてます！
3. 七夕は五節句のひとつであり、その場合の読みは「しちせき」です。(他には、1月7日：人日(じんじつ)の節句、3月3日：上巳(じょうし)の節句、5月5日：端午(たんご)の節句、9月9日：重陽(ちょうよう)の節句)
4. わし座とかアルタイルとかって名前、国際天文学連合(IAU)が定めた分類による名称です